平成27年度　第4回　牧之原市自治基本条例推進会議

次　．　第

日時：平成27年8月4日（火）
　　午後1時30分から午後3時30分
会場：牧之原市役所　榛原庁舎4階会議室1・2

1　開　　会

2　会長挨拶

3　市長挨拶

4　議　　題

（1）前回会議の振り返りとその後の協議事項について

（2）対話の場の進め方等について

（3）対話の場に参加する団体等の選出について

5　副会長挨拶

6　連絡事項

7　閉　　会

【配布資料】
・前回会議の振り返りとその後の協議事項について
・資料1　対話の場の進め方等について
・資料2　対話の場に参加する団体等の選出について

絆と元気が輝く
幸せあふれ みんなが集う
NEXTまきのはら

公共施設マネジメントに係る協議の経緯

（政策協働部地域創生課）

1　庁内会議の開催

	日時	項目	内容
5月	7日	第1回検討委員会	・公共施設最適化プロジェクトの進め方 ※基本方針案の修正、基本計画の策定
	13日	第1回推進本部	・公共施設最適化プロジェクトの進め方
6月	1日	第2回検討委員会	・専門部会の設置 ・基本計画の策定方針
	15日（月）	第3回検討委員会	・基本計画の基本的考え方 ・対話の場の設置、専門部会員の選定
	16日～17日	専門部会員の選定	・各施設担当者が部会毎に集まり、支援を要請したい職員を選定
	19日（金）	市議会全員協議会	・公共施設マネジメントの進め方
	26日	定例記者懇談会	
	30日（火）	第2回推進本部	・自治基本条例推進会議への諮問
7勝ち		合同研修会の開催	・本部、検討委員会、専門部会員が対象 ・必要性、進め方等の研修を受講
	7月21日（火）	第1回専門部会	・専門部会の役割 ・対話の場の参加者案の検討
	7月23日（木）～7月24日（金）	区長・区長代理視察研修	・さいたま市の取組 ・与野本町小学校（複合利用）
	7月22日（水）～8月3日(月)	施設分類別の方向性の原案作成	・施設担当課へ作成を依頼 ・課内で内容を協議して原案を作成
	8月7日（金）	第2回専門部会	・対話の場の参加者を決定 ・施設分類別の方向性に係る協議

	9月7日	第3回専門部会	・対話の場の進め方、 ・第1回プログラム、専門部会員の役割

対話の場の進め方等について

（政策協働部地域創生課）

1　概要

対話の場の全5回の進め方については、以下のとおりとする。
なお、この進め方の案に基づき、各回の具体的なプログラムを作成する。

2　進め方の案

回次	日時及び会場	内容
第1回	9月9日（水） 13:30～16:30 榛原文化センター 3階大会議室	■テーマ 総論に対する共通理解・問題意識の共有 ■プログラム ①公共施設に対する想いの共有 ②全国・牧之原市の現状、公共施設マネジメントの基本的な考え方の説明
現地視察	9月29日（火） 13:30～16:30 市内の公共施設等	■テーマ 市内の主要な公共施設の現地確認 ■プログラム 専門部会等で先導的と思わるような施設を選定
第2回	10月8日（木） 14:30～17:30 榛原総合病院 展望レストラン	■テーマ 各論に対する共通理解・問題意識の共有 ■プログラム ①施設分類別の現状 ②施設分類別の対策
第3回	10月23日（金） 13:30～16:30 学校の体育館等を予定（調整中）	■テーマ 施設と機能の分離とニーズの満たし方の発想 ■プログラム ①各施設について、どのような目的・ニーズで利用しているのか ②その目的・ニーズを満たすために有効な手法
第4回	11月17日（火） 13:30～16:30 コミュニティ施設等を予定（調整中）	■テーマ 分野別取組の方向性の検討と取組イメージの明確化 ■プログラム ①専門部会で作成した取組の方向性のたたき台を提示し、意見交換 ②複合化の事例を紹介・意見交換し、分野横断的な取組のイメージを共有
第5回	12月17日（木） 13:30～16:30 榛原庁舎 4階会議室1～4	■テーマ 取組の方向性の磨き上げと先導的な施設の抽出 ■プログラム ①前回結果を踏まえた試算結果と工程表を提示し、更に意見交換 ②先導的な施設を抽出し、取組の方向性を意見交換

3　対話の場に係る補足事項

(1) 会議の進行

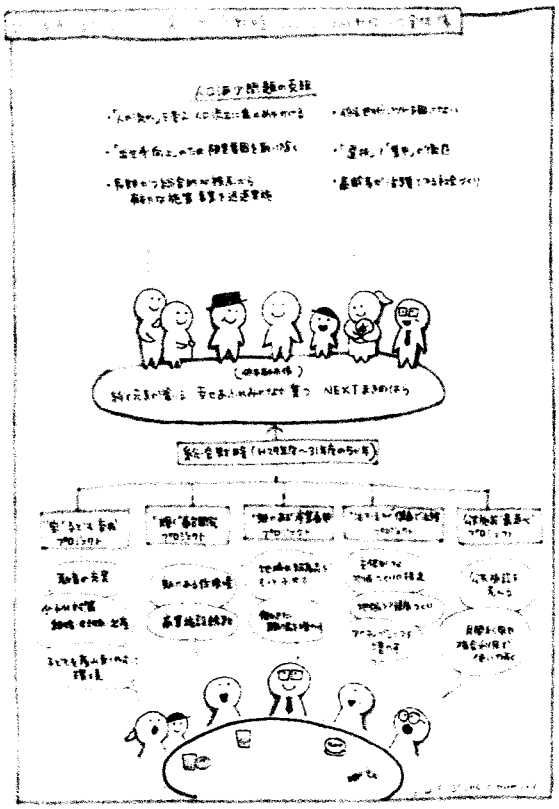
・50 名の参加者が 4 つのグループ（専門部会の 4 分野）に分かれる。
　回によっては、グループメンバーを混成して、横断的な意見交換を行う。
・対話の場の進行は、まちづくり協働ファシリテーターが行う。

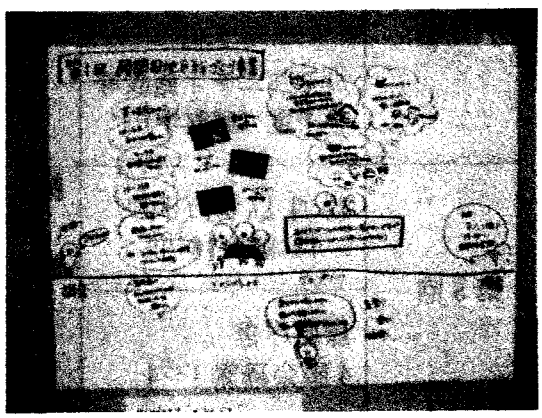
(2) 意見の反映

・合計 5 回の対話の場を通じて、施設分類別の現状と課題を共有したうえで「施設分類別の方向性」及び「先導的な施設」に係る意見交換を行う。
・出された意見を基に自治基本条例推進会議が上記の 2 点の答申案をまとめる。
・本年度 2 月に対話の場における意見の結果や答申案のとりまとめ状況について、広く市民に伝える報告会を開催する。

(3) 資料提供

・対話の場に提供する資料や会議のまとめなどはグラフィックファシリテーション（イラストによるまとめ）を行い、参加者に柔らかく伝えるような工夫をする。
・対話の場と並行して庁内会議（専門部会等）による検討を進め、対話の場に提供する資料の原案を作成する。
・特に議論が具体化する 4 回目及び 5 回目には、専門部会の施設担当者もグループの議論に加わり、市民と行政が一体となって話し合いを進める。





対話の場に参加する団体等の選出について

（政策協働部地域創生課）

1　目的

公共施設マネジメント基本計画の策定に当たり、市民の意見を把握するとともに、市民同士が学び合う機会を創出することを目的として「対話の場」を設ける。

対話の場の参加者について、話し合いの進め方や対象となる施設分類などを考慮し、以下のとおり選定した。

2　概要

(1) 参加者の考え方

・参加者は、毎回50名の規模とする。

・全5回を同じ人が出席することを原則とするが、出席できない場合は、所属団体から他のものが代理出席する。（毎回50名の規模を確保）

(2) メンバー構成

・選出区分の4つの分野は、専門部会の4つ分野と同様とする。【4×8名程度】

・その他、市全体の取組に関わっている市民など【8名程度】

・専門部会に所属する職員【10名程度】

(3) 対話の場に参加する団体（素案）

・平成27年7月21日（火）開催の第1回専門部会での検討案は以下のとおり

部会名	施設分類	団体名	選定の理由
行政・文化	庁舎	地域の人（消防分団長）	地域活動に熱心な人の視点
		商工会青年部	若者の視点
		大学生	若者の視点
		建築士	技術的な専門家の視点
	文化ホール	子育てサークル	利用者の視点
		社会福祉協議会	管理者の視点
		文化協会	利用者の視点
	図書館	読み聞かせグループ	読書の推奨の視点
		小中学校の先生	学校教育における図書の視点
		吉田・御前崎の図書館司書	管理運営の視点（他市施設）
学校・体育・子育て	学校	先生	管理運営の視点（実情把握）
		保護者	利用者の視点
		高校生・大学生（男性）	これから子育てする人の視点
		高校生・大学生（女性）	これから子育てする人の視点

	体育	体育協会	指定管理者の視点
		市外の複合施設の担当者・利用者代表・スポーツ講師	複合利用を進める視点
		施設経営者※エースワン等（ジム・プール・複合施設経営のノウハウがある企業）	民間・複合利用を進める視点
	保育園	保護者	利用者の視点
		公立幼稚園・保育園の保育士	管理運営の視点（実情把握）
		私立幼稚園・保育園の保育士	管理運営の視点（実情把握）
コミュニティ・公園	コミュニティ・公民館	施設利用者（公民館・コミュニティセンター）	利用者の視点
		学生	若者の視点
		新規採用職員	若者の視点
		消防団	防災機能と若者の視点
	公園	子育て世代	利用者の視点
		他市の施設を利用している人	市の施設の課題を把握
		専門知識を持っている業者（遊具等）	遊具などの効率的な維持管理の視点
		業務委託できそうな業者（コーヒーショップ等）	民間・複合利用、民間との連携の視点
		花の会	緑化・美観の視点
		ＰＴＡ関係の人	利用する子供の親の視点
保健福祉・観光産業	保健福祉	利用者（老人施設）の家族	利用者の視点
		利用者（介護施設）の家族	利用者の視点
		介護事業所で働く人	管理者の視点
		他施設を運営・管理している人	民間利用
		シルバー人材センター	利用者及び管理者の視点
	観光産業	観光協会	観光振興での活用の視点
		教育委員会（塩づくり）	教育文化面での活用の視点
		ライフセーバー	利用者の視点
		旅行業者	旅行の企画をする視点
		利用者（観光客）	利用者の視点

(4) その他

・上記とは別に市の職員 10 名と市全体の取組などに関わった市民 8 名程度を検討

・自治基本条例推進会議と第 2 回専門部会で当案の内容を整理し、全体で 50 名程度にまとめる。

平成２７年度　第４回　自治基本条例推進会議　議事録

日　時：平成27年8月4日（水）
午後1時30分～3時30分
会　場：榛原庁舎4階　会議室1・2

1　開　　会

2　会長挨拶

・榛原地区教育会館で榛原地区の校長が全員集合した研修会があり、講師として出席した。合計５０人ぐらい。管理職の使命みたいな話をした。汽車に飛び込んで亡くなった子どものことも思い出しながら、校長先生たちの問題も大きいと話をした。PTA、教育委員会、県に顔を向けて仕事をしていたら一番大事なことを忘れてしまう。生徒に密着している先生方に多くの時間を割いて校長としての責務を果たしてほしいと話した。教育界の常識は社会の非常識・・と叱るような話をしてきた。

・東京渋谷。「あ・えーる」という会社。１年間に千人の旅の手伝いをする。お年寄り・障がい者にターゲットをしぼった旅行会社。本当は地方でうまれなくてはいけないビジネス。お客さんの目的で多いのが二つ。お墓参りと故郷に帰ること。お墓参りでは道が悪ければスタッフがお客さんを負ぶってお墓まで連れて行くことも。全国の自治体にもこういうサービスがあれば。希望者があればノウハウを提供して一緒にできれば・・と社長も言っていたが。

3　市長挨拶

・午前中、ぼくまちの新市長、市議会の皆さん、市民課と管財課の皆さん(子ども)が訪問してきた。２２、２３日にい～らで、ぼくまち市が２日間誕生する。どんなまちになるか質問したら、おしゃれでわくわくするようなまちにしたいと話していた。２日間だけの通貨も出来る。お菓子屋、マッサージ屋など。原料を仕入れて売る。仕入れる環境は管財課が手配する。他にも銀行、ハローワーク、警察、税務署がある。当日、大人は有料で見学ツアーがある。若い力をいかに使ってやっていくか。

・増田ひろや氏(創生会議座長)に頼まれて４０分の話をして、その後にパネルディスカッションをした。全国から16000円を払って100人が集まった。あと

でみんな名刺を持ってきて、海老名市長が牧之原市に職員を派遣させてほしいとか、北海道旭川市のとなりの町の町長も、静岡空港と旭川空港を結ぶプロジェクトを・・とか。自分は牧之原市の取り組みと対話による協働のまちづくり・・今までやってきたことを話した。どこの市町村も生き残りをかけて必死に考えている。牧之原市が市民によるまちづくりをやってきたことが全国に広まっている。坂本先生に連れて行ってもらった岐阜のおもてなし・・出来るといいが。機会をうまく使って、牧之原市の地方創生が目立っていることを売りにすることが重要。

・山形県天童市で将棋サミット。天童市はふるさと納税が４月から今までで１０億円。天童の将棋の駒ストラップは必ずつける。売り物はさくらんぼや西洋なしなど・・。伊勢志摩の市長はサミットが決まったらふるさと納税が２か月ちょっとで２億円、と。有名になると付随してくるものも。外向きにも頑張ってやっていきたい。

４　議　　題

会　長：静岡経済研究所顧問の中島氏の講演記事が新聞に載っていた。静岡県は人と企業に嫌われている、と。その通りと思う。牧之原市みたいになればと思うが、牧之原市も企業は元気がない。８月下旬に「静岡県はなぜ近年衰退したか」を約２０のデータを使いながら講演を行う。３０代女性の有業率の過去５年間の増加率が４７都道府県で最下位。

(1)　前回会議の振り返りとその後の協議事項について

～事務局より前回の振り返り～

会　長：中身については(2)、(3)で議論していく。何か意見があれば・・？

委員からの意見は特になし

(2)　対話の場の進め方等について

～事務局より資料について説明～

～会長より論点について説明～

戸塚委員

・１ヶ月そこそこでよくここまできたと感心している。４、５回目がピーク。と、いうことは、現地視察も含めた１回、２回、３回に焦点をあてたプログラミングになっていないといけない。まだ時間もあるし、最終的には先導的な施設の抽出と方向性が出てくることがミッション。そこに１、２、３回目を有効に使っていければ。

・メンバーをどうするかは非常に悩ましいところ。

・公共施設マネジメントを進めていく鍵は市民・市役所・議会

・一般市民にもどこまでプロセスを知らしめていくかは別にして、公共施設マネジメントが今、なぜここまで騒がれているのかは広報誌に特集をかけてもいいぐらい大々的に一般市民にも知らしめていくべきでは？

・議会での蒸し返し、どういうプロセスでこうなった・・？と言われても辛い。プロセスの中に議会が絡められるのかどうか。メンバー選定にも関わってくる？議会に対してどうするのかはおさえておく必要があるのでは。

会　長：

・市民にどう理解と認識を深めてもらうか、一つのアイデアとして広報誌で特集を・・というのもいい方法。繰り返しやって、少しでも多くの人に認識してもらう方法としてはまだまだ他にも方法はあるのでは。

・市長に答申する中でその前後で議会との関係は重要。かと言って過程の中で入れすぎるのも・・あまり公式的にやるよりも、総合計画をつくったときは全議員に集まってもらって意見を聴いた。ガス抜き的な。推進会議の中で位置づけをしたほうがいいのでは？

市　長：

・議員の皆さんは今、法で入るように言われているもの以外すべての委員会に出ないということでどんどん抜けている。議会の皆さんに出てきてもらうことは難しい。場合によっては議員さんの主催で市民と議員さんがこのテーマで対話を持つこともいいだろうし、そうすることで高低差が近くなってくるのでは。推進会議側から提案してもらえれば。

・広報誌について。今、少子化で、子供を産んでもらうために各市町村で５０

０万・・となりの町は７００万・・とかそういう競争をやっているけど無駄。やるなら国の施策としてやるべき。来年には赤ちゃんの数が１００万人をきる。１年に３万人ずつ数が減ってきていて、オリンピックの時には９０万人をきる。各市町が自分の市町のお金で・・というのはおかしい。国がやると１兆円がかかる。どこかの予算を減らしてでも子供をつくってもらう施策をやらなくては。これは牧之原市だけのことじゃなくて、全部の市町村、国をあげてシャワーのごとくテレビ番組や広報でもやっていくことが一番効果的。

・国も縦割り。道路や橋梁、トンネルは国土交通省、○○は総務省・・とか。あわせてやってもらいたい。総論は全体でやる、個々のことは個々で使い分けてやっていければ。

会　長：
・地域創生課で全てではなくて、いろんなセクションがあるから２時間の会合の中で例え３分でも４分でも挨拶でも資料を説明する中でもいろんな場面でいろんな人と接触するだろうから、口から耳のほうが紙から目より効果があるのでは。専門部会でもそういうことは議論されていると思うが、それも一つのアイデア。

・議員の関係。市そのものとしては難しいだろうから、日程調整をしてもらって、推進委員の中で何人かと議員さんで対話をもったほうが、後を考えるとスムーズに進めていけるのでは。委員だけでは説明しきれない部分もある。推進会議の事務局として地域創生課同伴で行うべき。うまくいかなかったケースもあるので、慎重に進めたほうがいいと思うが。

○○委員：
・現地視察について。プログラムで、専門部会等で先導的と思われる施設を選定となっているが、事前に先導的な施設は選定する？

事務局：
・議論の中心になってくるような施設について専門部会の中でもある程度のイメージがあると思う。そういうところをピックアップして視察対象として選びたい。

会　長：
・参加メンバー５０人とみているが、バスを考えている？

事務局
・市のマイクロバス２台で６０人以上乗れる。

戸塚委員：
・百聞は一見にしかず。一回見ちゃうとどうしてもそれが中心になる。ペーパーの上ではいろんなことを言える。選定は非常に難しくなるのでは。

会　長：
・規模が大きい、コストが大きいだけでなく、実際には利用率がほとんどない・・・みたいなところもある。必ずしも維持コストが高いだけが問題ではない。専門部会と連動しながら選定していければ。多くて三ヶ所ぐらい？

市　長：
・一番簡単なのは、行くメンバーの中で一人三票ずつ投票をやって、上位三ヶ所を見学するという方法。

会　長：
・推進会議の参画について・・主催者ではあるのでオブザーバー的な形？最低でも１、２人ぐらいは当番で、挨拶程度で出たほうがいいのでは？

市　長：
・時間がある方には出てもらいたい。

会　長：
・市長はあまり表には出ないほうが・・行かないほうがいいのでは。挨拶だけはするとしても、すぐ帰るとか。推進会議の委員については、予定が合う限り出てもらえれば。日程調整はどうする？・・会議が終わってからで。

（3）　対話の場に参加する団体等の選出について

～事務局による説明～

～会長より論点の説明～

会　長：
・各団体の長に「誰か出してくれ」と言うとローテーション的にやっている団

体も多い。適材適所が行われていないところも。団体は尊重するべきなので根回ししながら進めていかなくては。各団体いろいろな考えを持っていると思うので、一本釣りと各団体を通じた推薦をうまく絡みあわせないと。決定する会議ではないからいいけど、なるべく客観的にいろいろなことを言ってもらったほうがいい。

・参加者の中に利用者が多い。統合・スクラップとなってくると利用者には必要性を問われる。利用者の声を聴くことは、今ある施設をよりよくするためにどうするかというときには必要だが、現状はそうではないので・・メンバー選定にもう一工夫欲しい。

永田委員：
・該当しそうなメンバーそれぞれが必要・不必要という話を必ずする。複合した経営が可能かどうかの判断が、その人たちだけでは出来ない。もう少しメンバーの選定が必要では。

戸塚委員：
・メンバーの工夫と、専門部会がいろいろと専門的に考えてくれる中でかぶさる施設なり考え方が出てくるはず。５回の中の３、４回目ぐらいまでにはオプションでそういう時間をとって進めると理解しているが・・そのことで永田委員の言った疑問の一つはクリア出来るかと。その通りにうまくいくかは分からないが。

市　長：
・これは総合計画の重点プロジェクトの５つ目。重点プロジェクトは「まちひとしごと創生総合戦略」の５つのうちの一つとして位置付けた。今、国が求めている「まちひとしごと創生総合戦略」は、人口を増やして地域を活性化させること。公共施設の適正化をしたことによって地域が活性化出来るかどうかが問われる。利用している人に聞いても今を継続していきたいと言う。一緒にすることによって人を呼びこんでもっと良くなるというようなことを考えたり提案したりして叩いてもらうべき。クリエイティブな感覚が少し足りないのでは？

・岩手県紫波町のオガールプロジェクト。まちが公共投資をやりすぎてお金がなにもない。土建屋の息子が田舎にもどって来て、東洋大学のプロジェクトで何十ヘクタールの土地に役場を民活でつくった。他のいろいろなところも

全部民活でつくった。地方創生は紫波に学べ・・というぐらい有名な町に。何かを潰して一緒にするにしても、夢と希望が湧くようなものを。町民も最初はみんな反対していたが、役場の職員が説明しながらワークショップを何回もやって・・。このメンバーでそれがつくれるかどうかは分からないが。そういうものも欲しい。

・メンバーに、きん・ろう・マスコミが入ってない。(事務局：１０人ほど残りの枠が・・)

戸塚委員：

・多角的な視点を求める結果として新鮮さのある施設に様変わりするということで、いろいろな視点の話。例えば地域創生担当の臨時雇用職員(地域おこし協力隊)。もともとモチベーションが高いから、いろんな視野も広いはず。

・さざんかにいる静岡県立大学のセンター・オブ・コミュニティの学生たち。彼らのスタディーフィールドと公共施設マネジメントの検討フィールドは絡んでくるのでは？そこもメンバー人選の中で検討してみては。

・東京・大阪などに牧之原市のアンテナ組織がある。そういうところから誰か。外から見た牧之原はなかなか見えてこない。入れてみたらどうか？

○○委員：

・市全体の取組に関わっている市民８名程度というのは・・？

事務局：

・ネクスト牧之原メンバー・・いろんな若手が集まっている。漏れている意見を拾えるような人を入れてきたい。新宿でアンテナショップをやっているメンバーもいるので、入ってもらえれば・・。

会　長：

・推進会議会長の推薦・・みたいな形で、そういう人のポストはつくっておいてもらえれば。両手両足を地域に突っ込んでいる人はどうしても主観に陥りがち。

・公募もやっておいたほうがいいのでは？窓口だけは開いてあげておかないと。

○○委員：
・保健福祉のところ。介護事業所・・老人に限定？老人施設に限定されるのか？

事務局：
・障がい者施設なども含める

櫻井委員：
・全体的に利用者が中心。あまりにも利用者の視点が多すぎるのも問題。バランスを考えて構成すべき。

・消防分団長と消防団、保護者とPTAなど、似ているところがいくつかある。

市　長：
・利用者を細かくしてある。内訳を細かくしたのは担当部署？

事務局：
・専門部会の中で、施設分類の考え方から。施設分類はなくてもいいかと考えているが。目安として入れた。

市　長：
・選んだ人がたまたまコーヒーショップ等をやっている方だったならいいけど、コーヒーショップ等で選んでいくと難しい

会　長：
・なんで地域の人の代表で消防分団長が出てくる？

事務局
・ワークショップの付箋の文字をそのまま・・活動熱心な人を入れたいという意味で消防分団長を入れたいということ。地域の人という言葉は余分かと。

市　長：
・対話の場でこういうことをやっているところは全国的に例はある？

事務局：
・さいたま市。現地視察もさいたま市の事例で入れたいと考えた。さいたま市はもう少し規模が小さく、公募して１０名程でやった。商店街のおじいさん

なども入り、勉強する中で考え方が変わり、前向きな意見が出るようになった。地域の人は必ず入れるべき。

市　長：
・それをファシリティマネジメントで誰かがやっていった？

事務局：
・さいたま市の行政改革本部・・西尾氏が。

会　長：
・ほとんどの公共施設は利用しない人が圧倒的多数。意見を聴く会だから、利用していない人からもどんなことでもいいから言ってもらって、その過程があることが大事。メンバーは利用者に偏りすぎず、バランスを整えないと。

○○委員：
・利用者を多く入れることのメリット・デメリットがあると思うが、いい予感がしない・・スクラップがあるから。牧之原市で生活している牧之原市民からすれば、とても出来ないのでは・・。自分事で考えると、自分の身に降りかかって考えているところ。

・高校生・・この日時で参加出来るのか心配。榛原高校、相良高校あるが、榛原高校は可能かと。相良高校は時間・場所的にも少し厳しいのでは？

・榛原高校なら木曜日の７時間目 LHR(ロングホームルーム)がある。そういうところで何か出来ないか？会長が諮問？○年○組のクラスの LHR を何回か使って意見をまとめてもらったらどうか？榛原高校なら１クラス平均で３５人の生徒がいる。３５人分の意見集約は出来る。

・保育園・・公立幼稚園と私立幼稚園がなぜわかれているか分からない。あえて公立・私立を気にしなければいけないなら相良高校・榛原高校は公立だから、市外の私立高校も入れてみては？常葉菊川高校、藤枝明誠高校。市内からも通学している学生がいる。

市　長：
・１０月に榛原高校で半日ぐらい何クラスかで授業をやる。学校側に頼めば OK が出るのでは。大人の中に高校生が入っても・・市側が名目上入れた形にな

るだけ。相良高校でもOK出るはず。

○○委員：
・４月は理数科の１年生が牧之原市を良くしようみたいなワークをやった。高校生については別のやり方を考えてもいいのでは。

市　長：
・県立大学のCOCにこの切り口でやってもらって、場合によっては提案までしてもらえば。図書館と一緒になって「これはどうですか？」とか。

○○委員：
・必ずしもこの会議は牧之原市でやるべきなのか？法政大学の駅伝部は静波海岸で駅伝の練習をしている。会長のつてで・・。東京でこういう会議をして意見を言ってもらってもいいし、関西は関西で意見を出してもらってもいいのでは。

会　長：
・もう一つの仕掛けとして、オプションのような感じで市外で会議を開くというのも良いアイデアだと思う。

○○委員：
・地域の人だけが話し合うのと、若者が夢を持って意見を出すことが、参加する人たちの気持ちを変えるのには一番のチャンスだと思う。

○○委員：
・メンバー構成から考えてサロンを具体的にイメージしたときに不安。教育委員会や保育園の先生などの市役所職員があえて対話の場の中に位置づけられて入っているという部分の境のラインと、専門部会の中でも施設担当者から参加を要請された職員がどういう理由で入っているのか・・それによって構成も調整したほうがいいのでは？利用者レベル、市民の一般レベルの人と専門レベルの人との対話となると、今の構成ではイメージがつきにくい。仕事をする側と利用する側の意見は反対論。まとまらない。

・対話の場の仕切りはまちづくり協働ファシリテーターに・・ということだが、並行して絆づくりも動いている。人員は足りるのか？ファシリが多忙になってしまうのでは？

・保護者の代表となっているPTAの長は、だいたい父親が一年だけ長をやっているという形が多い。これからサロンを意見抽出だけの場でなく、対話することによって反対意見も述べるような意味でやっていくのであれば、もう少し母親側からの意見を吸い上げてきて、一度別枠でやったものをもってくるような段取りも必要になるのでは。

会　長：
・いきなり各団体の長が集まってきて議論するとなると、利用者の立場で言ったりかっこいい意見を言ったり・・ということになる。各団体でもんでもらって、もうちょっと要約して意見を聴くというのもいいのでは。

○○委員：
・意見が全部通るということではなくて、利用者がこういう動きがあることを知っていった中でスクラップもあり・・という方法もありでは。

戸塚委員：
・残りの４つのプロジェクトでもいろいろな施策、場所を含めた課題、希望、問題点、方向性がある。他の４つのプロジェクトの中でファシリティに絡むようなところがどう動いているのか知りたい。

事務局：
・高台開発はある程度進行形で話が動いている。子育てについては、学校教育を充実させるために各学校に英会話の教師を置いたり・・と、どうしてもお金がかかる。特色ある教育を発揮しようとしてもハードの枠があるとやりきれない。そういう面で公共施設マネジメントとセットになって学校数が整理されていくと施設投入出来るお金も増え、色を出しやすくなる。学校のソフトの部分を充実させるためにハードを整理していくこともあわせて考えていく必要があると教育文化部長とも話をした。そのへんをこの中でもやりながら、教育文化部や健康福祉部でも話をしてある程度話をしたものをフィードバックしてほしいと言われているので、並行してやっていきたい。公共施設マネジメントがきっかけとなって他のプロジェクトを動かしていく可能性も十分にある。連動してやっていくことが出来るのでは。それ以外の２つのプロジェクトについてはハードとのつながりが薄い。何らかの関連をもって、ハードを中心としたテーマの話をしていくということは重要になってくると考えている。

戸塚委員：
・重点プロジェクトが寄り集まる会合・・責任者クラスが集まる会合・・推進本部の中での議題にならない？

事務局：
・議題にすべきもの。総合計画を推進していくうえではそういったものが推進本部の役割としては重要だと思う。

戸塚委員：
・共通するテーマとしてファシリティはどこのプロジェクトについても絡んでいるもの。プロジェクトのソフトプログラムを研究・設置・推進するプロセスにおいて絶対出てくるテーマ。

会　長：
・本当は各プロジェクトの中にこういう諮問会議があればいいが、スクラップを伴い市民の生活にも直結するのが私たちがやっていること。各プロジェクトについては並立だけど、このプロジェクトについてはより広く深く議論が必要ということで私たち会議が設けられた。

戸塚委員：
・他のプロジェクトについても話の中で現状、課題、要望、足りる・足りない、余っている・余っていない・・という話が出てくるはず。それをこっちに投げ返してもらえばいい。

市　長：
・その分野については総合計画審議会で他のプロジェクトについては見ている・・？本来はここも同じこと。全体をここであげて議論してもらって、総合計画審議会よりもここのほうが議論が詰まる。

会　長：
・今年の総合計画審議会は進捗管理が主。せいぜい年に２、３回ぐらい。

・今日出た意見は貴重。本部会議、総合計画審議会も連携しながら・・

市　長：
・４つのプロジェクトが内容的には全部ここで出てくる。話し合いをしていく

うちに、４つのプロジェクトにも関連しているという意識づけにもなっていくのではないか。この対話の場を使って他のプロジェクトのものを入れ込んでいけば・・そこからどういうふうになるかは分からないけど、それでもいいのでは？

○○委員：

・公共施設の最適化プロジェクト。最適化と言うと言葉としては輝きがあるが、現状ハードがこのままでは立ち行かない。重たい課題。ここ２、３年は問題ないと思うが、５年、１０年後を考えたときに複合化・廃止の決断をしていかなければならない。

・対話の場・・市民の啓発・啓蒙の場という位置づけで考えると、いろんな形で市民の皆さんにご理解をいただく場。とにかくハードを何とかしなきゃいけない。５回＋現地視察でやっていくのがベター。

・人選について。オフィシャルな人選と個人的に「頼むね・・」みたいな人選があると思う。我々は割り切って考えるしかない。

○○委員：

・日程・時間は確定？

事務局：

・変更可能

○○委員：

・妹が保育士。この時間帯は保育士は一番忙しい時間では・・？保護者も自分が仕事に出ているから子供を預けていて、17時～18時に迎えに行く。学校の先生も・・。人選を本当にこれでいくとすれば、この人たちが本当に出れる時間帯にしないと、名簿上は50人いても毎回対話に出てくる人は２人、３人になってしまうのでは。それでは啓発啓蒙の目的が達成出来ない可能性も。時間帯をもう少し検討すべき。

戸塚委員：

・この頻度でこの時間帯では無理かも。それにかわるものとして、ここにあがっている団体、グループはそれなりの情報を交換して問題点も出し合って、意識も高まっている人たち。そういうものをこのためにもらえばいい。全部

集まって全部出してもらって理解してもらうということよりも、保育関係、福祉関係等についてはかなりの利用者の声、施設運営側の問題意識が出来上がっている。あるものはもらう。聞き足りないものは締め切りを設けて自由に集まってやって下さい・・そういう形のほうが楽では？区分は４つでいいとしても、メンバーシップのあり方については視点が変わってくると思う。もっと未来志向的な、バックグラウンドもよく分かった、かなりのレベルの方が求められてくる。ここで一からいろんな意見を戦わせていたら時間がどれだけあっても足りない。あるものはもらうという発想。もう一押しで形づくられそうなら、９月末までに関係者で集まって意見なり使い勝手なりをまとめて下さい・・と。それをこの場にもらう。それでもいいのでは？やり方は柔軟に考えたほうがいい。

○○委員：

・考え方がヘッドオフィスすぎる。うまくやっている会社はカンパニー制度をつくって全部こなすやり方でやっている。市長が言ったようにオプションを増やしていろんな実をつけて、最後にホールディングスっていうふうにしていったほうが。

事務局：

・高校生に関してはこの時間に出れないという話も事務局内で出た。逆に、団体を代表して出てくるためには昼間じゃないといけない団体も・・教職員は夜間になると時間外になってしまって、団体の代表として出せない。この時間に出てこれない人については別でやることも検討している。総合計画をつくったときも、高校生は別だった。大学生もやった。出来ればそのほうがいいかと自分も考えている。

会　長：

・何かを決めるのではなくて、基本的にはいろいろな意見を言ってもらって、その通りになるかどうかは別として、プロセスとして一人でも多くの人の意見を聴いたという形にしておいたほうがいいと思う。やり方の一つとして、５０人を毎回・・というのも一つだが、各団体で十分にもんでもらって、もう少し客観的な視点で述べてもらって、その意見を踏まえてそれをたたき台にしてやったらどうか。一階構造を二階構造に。必ずしも５０人にこだわらなくてもいいのでは。そういう意見が会議で出たことも、内部でもんでもらいたい。

・出やすい曜日と出やすい時間帯についてはもう一度検討するべき。土日？夕方？

・対話の場第１回～第５回。会議メンバーから何人かは毎回出席したほうが・・誰か？挨拶程度はしたほうがいい。

・９月 29 日の現地視察。このメンバーで別途にすれば？会議が行われる１時間前に・・それか、会議が終わってから１時間で・・。

５　副会長挨拶

・これから対話の場が始まる。市民の皆さんにまだまだ認識がない中で重たい決断をしなければならない。推進会議メンバーとして啓発啓蒙の機会と捉えて、また都合をつけて参加をお願いします。

６　連絡事項

次回の会議：１０月７日(水)　午前９時～　会場は未定。決まり次第連絡します。

７　閉　会